

第2章 地域課題の解決に関する取組状況等調査の結果

1 高等学校・特別支援学校教員対象調査

(1) 回答数および回答率と回答者の属性

ア 回答数および回答率

(ア) 調査対象者	83名
(イ) 回答数	83名
(ウ) 回答率	100.0%

イ 回答者の属性（地区別、課程・学科別回答数等）

【表 64】

地 区 別		
河内地区	n= 20	24.1%
上都賀地区	n= 9	10.8%
芳賀地区	n= 8	9.6%
下都賀地区	n= 17	20.5%
塩谷南那須地区	n= 8	9.6%
那須地区	n= 10	12.0%
安足地区	n= 11	13.3%
合 計	N= 83	100.0%

【表 65】

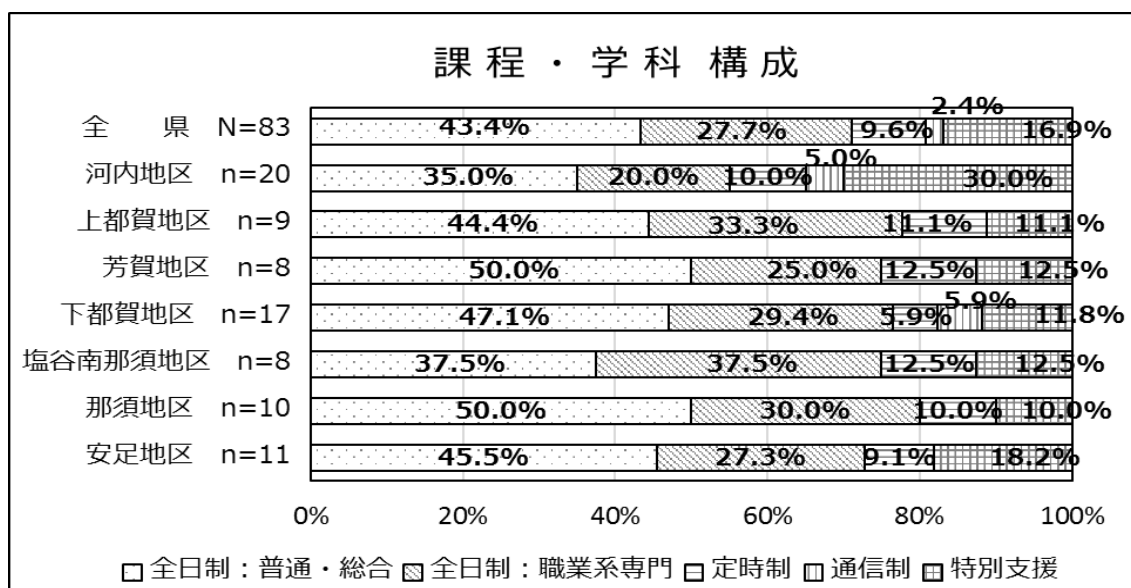
課 程 ・ 学 科 別		
全日制：普通・総合	n= 36	43.4%
全日制：職業系専門	n= 23	27.7%
定時制	n= 8	9.6%
通信制	n= 2	2.4%
特別支援学校	n= 14	16.9%
合 計	N= 83	100.0%

今回の調査では、全ての県立学校（高等学校、特別支援学校高等部〈附属中学校等は除く〉）に御協力いただき、各校（課程毎に）1名、合計83名の教員から回答を得られた。なお、全日制で普通科と職業系専門学科の両方を有する学校については、「全日制職業系専門学科」として集計した。

地区別にみると、学校数の多い河内地区、下都賀地区の割合がともに20%を超えて高かった。それ以外の地区については、9～13%の範囲内である。

課程・学科別にみると、学校数の多い全日制普通・総合系学科が全体の約40%を占めた。

【図 59】



(2) 地域課題の認識状況

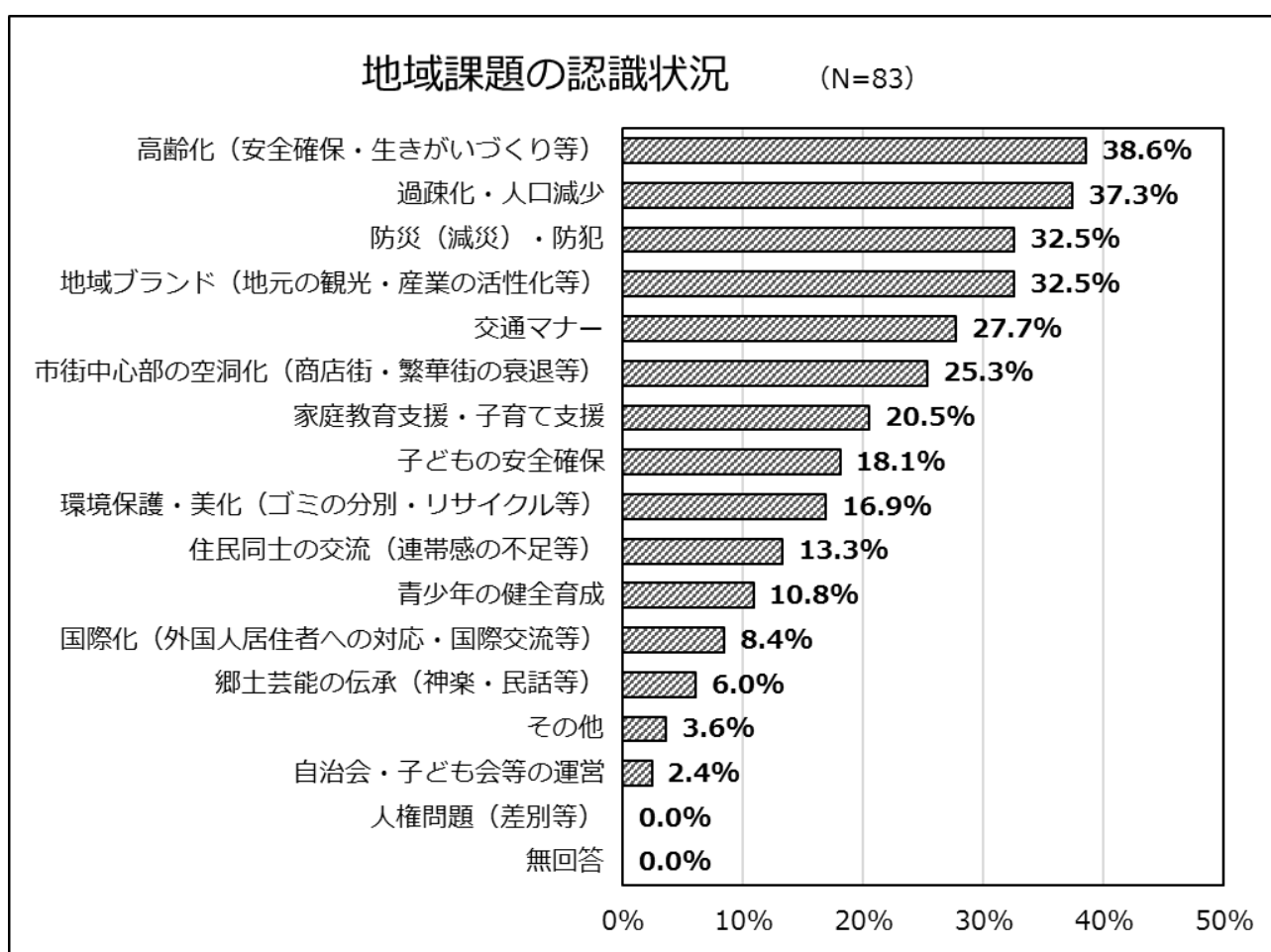
本調査における「地域」とは、回答者が勤務する学校付近とし、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問1 あなたの勤務する学校のある地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号3つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題の認識状況

【図 60】



学校のある地域の課題は、全県でみると、「高齢化」の回答割合が最も高かった。次いで「過疎化・人口減少」「防災（減災）・防犯」「地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）」と続く。これらの4項目が、30%以上の回答割合となった。

【表 66】

地域課題の認識状況 (各地区別)	全 県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
防災（減災）・防犯	32.5%	60.0%	11.1%	50.0%	29.4%	0.0%	20.0%	27.3%
子どもの安全確保	18.1%	40.0%	22.2%	12.5%	17.6%	0.0%	10.0%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	20.5%	20.0%	11.1%	0.0%	29.4%	12.5%	30.0%	27.3%
青少年の健全育成	10.8%	5.0%	22.2%	12.5%	17.6%	0.0%	10.0%	9.1%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	6.0%	10.0%	22.2%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	2.4%	5.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	13.3%	15.0%	0.0%	0.0%	23.5%	0.0%	0.0%	36.4%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	38.6%	20.0%	33.3%	50.0%	29.4%	37.5%	90.0%	36.4%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	32.5%	20.0%	33.3%	25.0%	35.3%	62.5%	30.0%	36.4%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	8.4%	10.0%	0.0%	25.0%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%
過疎化・人口減少	37.3%	5.0%	55.6%	50.0%	11.8%	87.5%	80.0%	36.4%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	16.9%	30.0%	22.2%	12.5%	23.5%	0.0%	10.0%	0.0%
人権問題（差別等）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	25.3%	10.0%	11.1%	25.0%	23.5%	62.5%	30.0%	36.4%
交通マナー	27.7%	50.0%	33.3%	12.5%	23.5%	0.0%	20.0%	27.3%
その他	3.6%	10.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【表 67】

選ばれなかった選択肢数 「その他」を除く（地区別）	
河 内 地 区	1
上都賀地区	4
芳 賀 地 区	5
下都賀地区	2
塩谷南那須地区	9
那 須 地 区	5
安 足 地 区	6

【表 68】

最上位の選択肢とその回答率 (地区別)		
河 内 地 区	防災・防犯	60.0%
上都賀地区	過疎化・人口減少	55.6%
芳 賀 地 区	防災・防犯 他 2 項目	50.0%
下都賀地区	地域ブランド	35.3%
塩谷南那須地区	過疎化・人口減少	87.5%
那 須 地 区	高齢化	90.0%
安 足 地 区	住民同士の交流 他 4 項目	36.4%

地区別にみると、顕著な差異が認められる結果となった。

回答割合の最も高い項目も、地区の状況に応じて異なるものが挙げられている（表 68 参照）。また、河内地区や下都賀地区では全ての項目の中で選ばれなかったものが 1～2 個で各項目に回答が分散していたり、芳賀地区や安足地区では、最上位の項目が同じ回答割合でそれぞれ 3 項目、5 項目あったりと、課題として捉えられているものが分散していることが分かる。一方で、塩谷南那須地区では選択肢の中で選ばれなかったものが 9 個であったり、那須地区では最上位の選択肢の回答率が 90.0%と高かったりと、課題として捉えられているものが集約されていることが分かる。

イ 課程・学科別にみた地域課題の認識状況
【表 69】

地域課題の認識状況 (課程・学科別)	全 県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
防災（減災）・防犯	32.5%	30.6%	39.1%	12.5%	50.0%	35.7%
子どもの安全確保	18.1%	11.1%	8.7%	25.0%	50.0%	42.9%
家庭教育支援・子育て支援	20.5%	25.0%	4.3%	75.0%	0.0%	7.1%
青少年の健全育成	10.8%	8.3%	17.4%	0.0%	50.0%	7.1%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	6.0%	8.3%	4.3%	12.5%	0.0%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	2.4%	0.0%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	13.3%	11.1%	13.0%	0.0%	0.0%	28.6%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	38.6%	41.7%	30.4%	50.0%	0.0%	42.9%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	32.5%	36.1%	47.8%	0.0%	50.0%	14.3%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	8.4%	11.1%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
過疎化・人口減少	37.3%	47.2%	34.8%	25.0%	0.0%	28.6%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	16.9%	11.1%	21.7%	25.0%	0.0%	21.4%
人権問題（差別等）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	25.3%	30.6%	21.7%	25.0%	50.0%	14.3%
交通マナー	27.7%	19.4%	47.8%	0.0%	50.0%	28.6%
その他	3.6%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制普通・総合系学科では「過疎化・人口減少」、全日制職業系専門学科では「交通マナー」「地域ブランド」が、定時制では「家庭教育支援・子育て支援」、特別支援では「子どもの安全確保」「高齢化」がそれぞれ最上位と、課程・学科別でも差異がみられた。

《参考：問 1 「その他」の主な回答記述》

○課題を把握していない

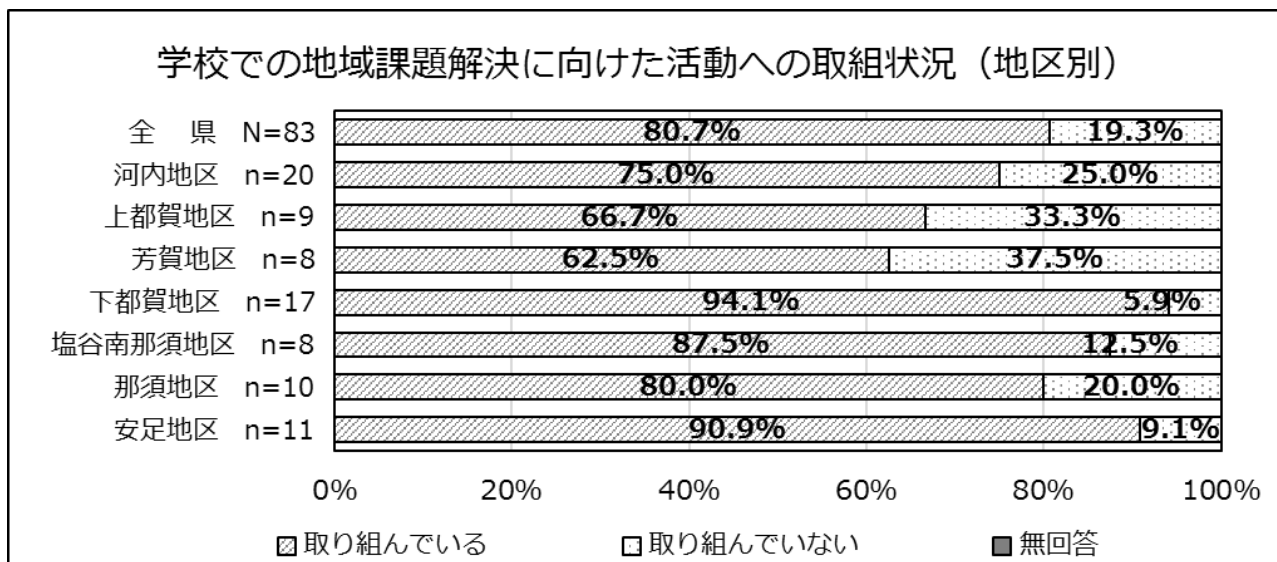
(3) 地域課題の解決に向けた取組状況（学校）

問2 現在、あなたの学校では、地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。下記活動例を参考に、あてはまる番号に○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題の解決に向けた取組状況（学校）

【図 61】

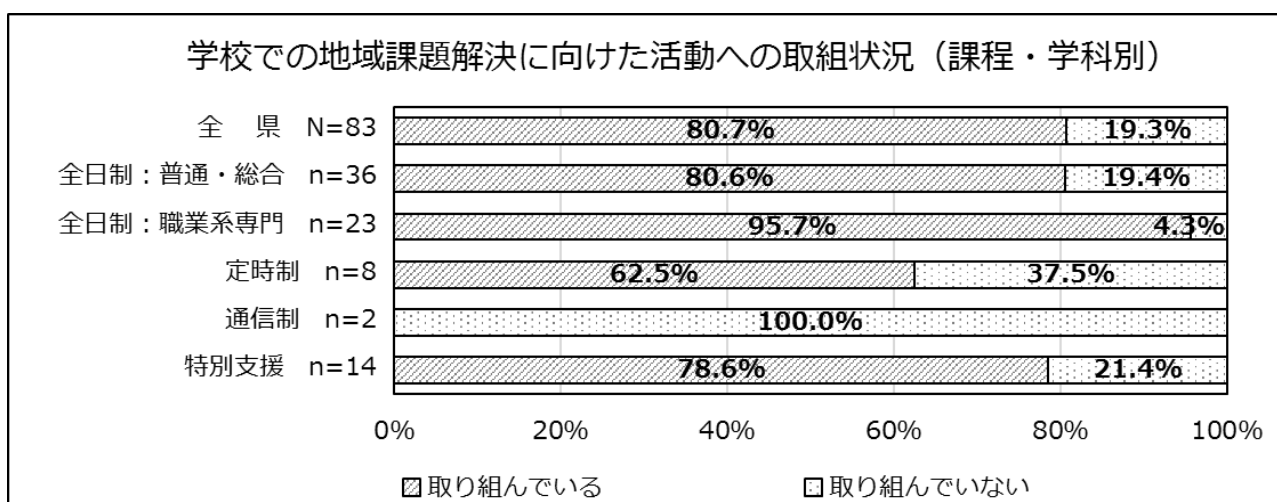


全県でみると、「取り組んでいる」と回答した割合が80%を超えて高かった。

地区別にみると、「取り組んでいる」と回答した割合は、下都賀地区、安足地区でやや高く、上都賀地区、芳賀地区でやや低い結果となった。

イ 課程・学科別にみた地域課題の解決に向けた取組状況（学校）

【図 62】



全日制職業系専門学科では95%を超えるなど極めて高く、ほぼ全ての学校で何らかの活動に取り組んでいることが分かる。

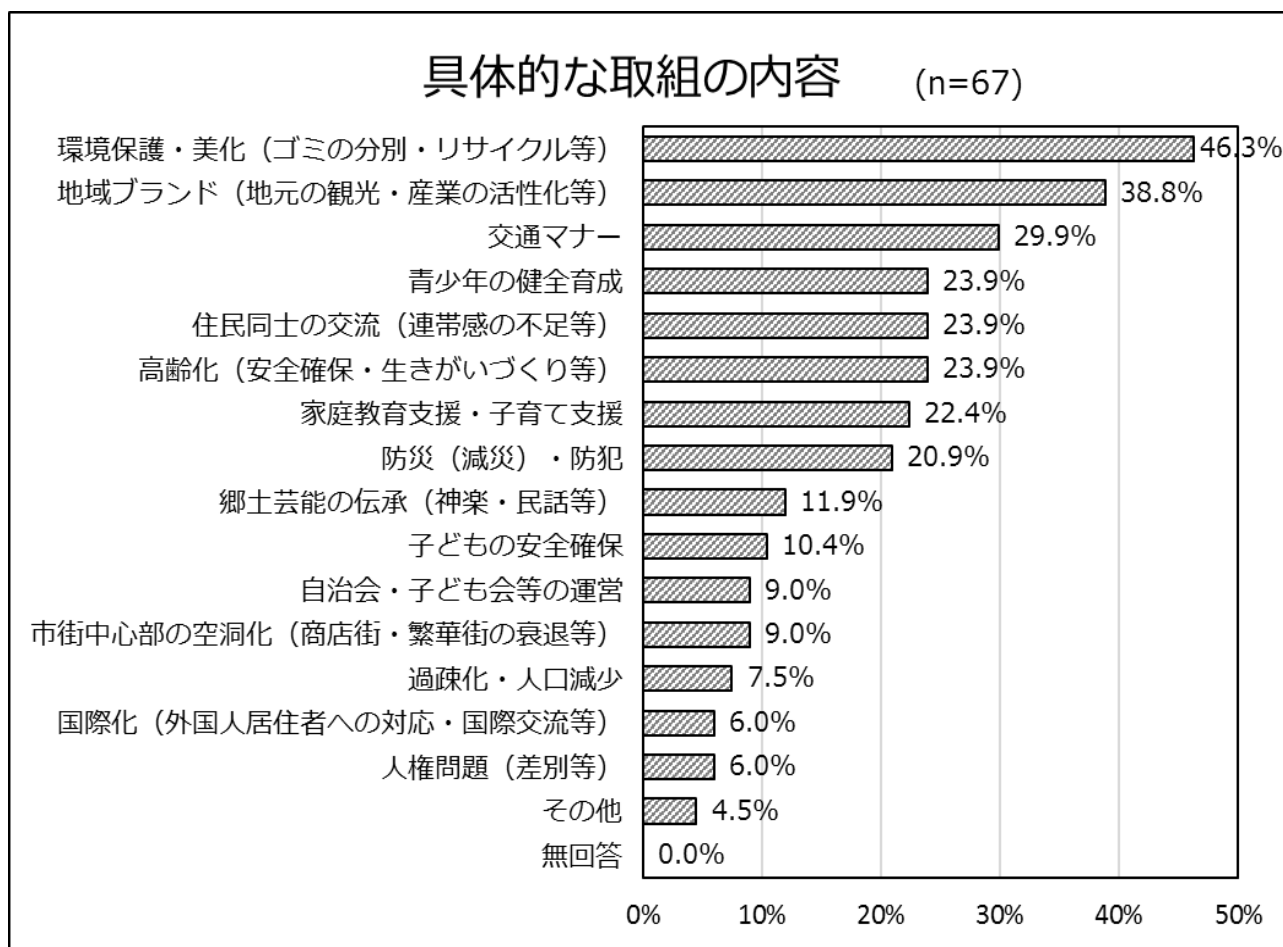
(4) 具体的な取組の内容

問3 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは、どのような内容の課題解決に向けた活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた具体的な取組の内容

【図 63】



地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいると回答した 67 名に、その取組内容について質問した。

全県でみると、「環境保護・美化」の回答割合が 46.3%と最も高かった。次いで、「地域ブランド」の回答割合も高く、これら 2 項目が 30%を超えた。

「交通マナー」も 29.9%と回答割合が高かった。

【表 70】

具体的な取組の内容 (各地区別)	全 県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
防災（減災）・防犯	20.9%	26.7%	16.7%	60.0%	12.5%	28.6%	12.5%	10.0%
子どもの安全確保	10.4%	6.7%	16.7%	20.0%	6.3%	14.3%	12.5%	10.0%
家庭教育支援・子育て支援	22.4%	33.3%	0.0%	0.0%	31.3%	28.6%	12.5%	20.0%
青少年の健全育成	23.9%	20.0%	16.7%	20.0%	37.5%	0.0%	37.5%	20.0%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	11.9%	13.3%	16.7%	20.0%	0.0%	14.3%	37.5%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	9.0%	26.7%	16.7%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	23.9%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	28.6%	50.0%	30.0%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	23.9%	6.7%	33.3%	40.0%	25.0%	42.9%	12.5%	30.0%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	38.8%	6.7%	66.7%	40.0%	56.3%	57.1%	37.5%	30.0%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	10.0%
過疎化・人口減少	7.5%	0.0%	16.7%	20.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	46.3%	53.3%	33.3%	40.0%	68.8%	28.6%	50.0%	20.0%
人権問題（差別等）	6.0%	6.7%	0.0%	0.0%	6.3%	28.6%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	9.0%	6.7%	0.0%	20.0%	0.0%	42.9%	0.0%	10.0%
交通マナー	29.9%	40.0%	33.3%	40.0%	18.8%	14.3%	25.0%	40.0%
その他	4.5%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

河内地区で「環境保護・美化」、上都賀地区で「地域ブランド」、芳賀地区で「防災・防犯」、下都賀地区で「環境保護・美化」「地域ブランド」、塩谷南那須地区で「地域ブランド」、那須地区で「住民同士の交流」「環境保護・美化」の回答割合が、それぞれ 50%以上であった。

イ 課程・学科別にみた取組内容
【表 71】

具体的な取組の内容 (課程・学科別)	全 県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
防災（減災）・防犯	20.9%	6.9%	27.3%	20.0%	0.0%	45.5%
子どもの安全確保	10.4%	6.9%	13.6%	20.0%	0.0%	9.1%
家庭教育支援・子育て支援	22.4%	31.0%	13.6%	20.0%	0.0%	18.2%
青少年の健全育成	23.9%	24.1%	22.7%	20.0%	0.0%	27.3%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	11.9%	3.4%	22.7%	0.0%	0.0%	18.2%
自治会・子ども会等の運営	9.0%	6.9%	9.1%	0.0%	0.0%	18.2%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	23.9%	31.0%	9.1%	0.0%	0.0%	45.5%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	23.9%	24.1%	27.3%	20.0%	0.0%	18.2%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	38.8%	37.9%	63.6%	0.0%	0.0%	9.1%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	6.0%	6.9%	4.5%	20.0%	0.0%	0.0%
過疎化・人口減少	7.5%	10.3%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	46.3%	41.4%	40.9%	60.0%	0.0%	63.6%
人権問題（差別等）	6.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	9.0%	6.9%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
交通マナー	29.9%	27.6%	40.9%	0.0%	0.0%	27.3%
その他	4.5%	6.9%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制職業系専門学科を除き、「環境保護・美化」の回答割合が最も高かった。学校にとっても高校生にとっても取り組みやすい内容であると推測できる。一方で、全日制職業系専門学科では、「地域ブランド」の回答割合が最も高かった。学校で学んだ成果を地域で生かす活動が根付きつつある状況がうかがえる。

《参考：問3「その他」の主な回答記述》

○学校と（周辺）地域との交流活動

○異世代間交流

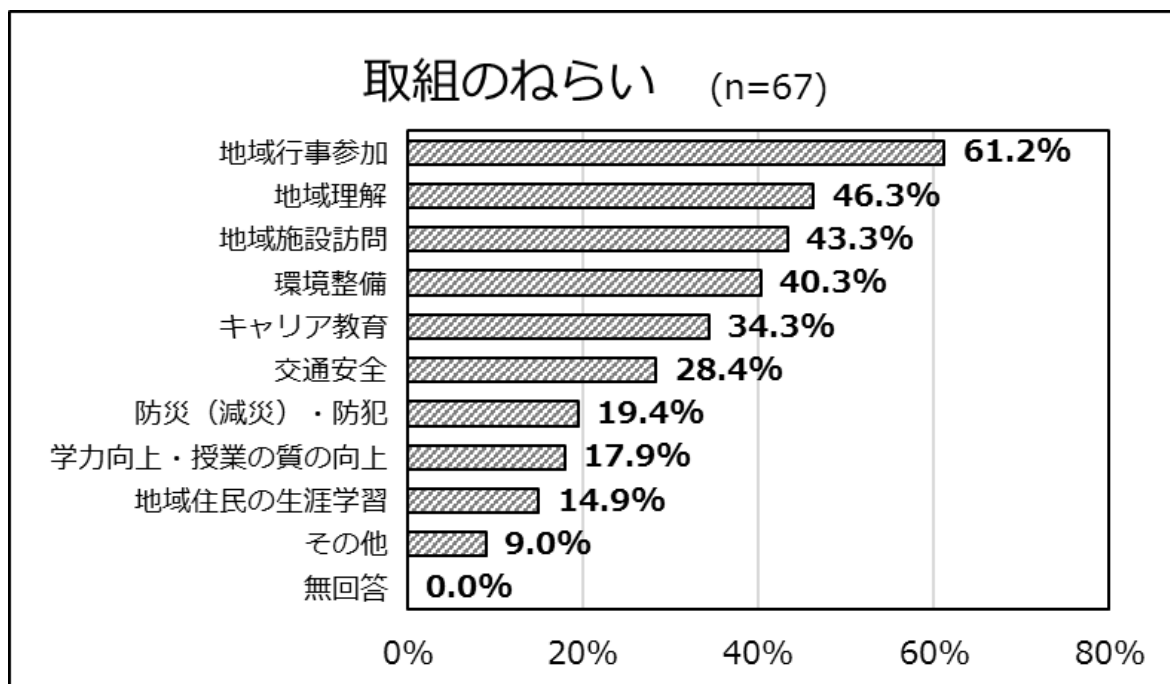
(5) 取組のねらい

問4 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは、どのような取組として行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた取組内容

【図 64】



【表 72】

取組のねらい (各地区別)	全 県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
学力向上・授業の質の向上	17.9%	0.0%	50.0%	20.0%	12.5%	28.6%	25.0%	20.0%
環境整備	40.3%	26.7%	33.3%	40.0%	68.8%	28.6%	50.0%	20.0%
キャリア教育	34.3%	33.3%	16.7%	40.0%	31.3%	57.1%	37.5%	30.0%
地域行事参加	61.2%	53.3%	66.7%	60.0%	56.3%	71.4%	87.5%	50.0%
地域理解	46.3%	46.7%	50.0%	80.0%	31.3%	57.1%	75.0%	20.0%
地域住民の生涯学習	14.9%	20.0%	0.0%	0.0%	18.8%	28.6%	12.5%	10.0%
地域施設訪問	43.3%	20.0%	66.7%	60.0%	37.5%	71.4%	25.0%	60.0%
防災（減災）・防犯	19.4%	20.0%	16.7%	60.0%	12.5%	28.6%	12.5%	10.0%
交通安全	28.4%	46.7%	16.7%	20.0%	25.0%	0.0%	25.0%	40.0%
その他	9.0%	13.3%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	25.0%	10.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「地域行事参加」の回答割合が最も高く、全ての地区で半数を超えた。次いで、「地域理解」「地域施設訪問」となり、地域を学ぶ、地域に出向くものが上位となった。

地区別にみると、河内地区で「交通安全」が、上都賀地区で「学力向上・授業の質の向上」が、芳賀地区で「防災・防犯」が、下都賀地区で「環境整備」が、塩谷南那須地区で「キャリア教育」がそれぞれ他の地区と比べて回答割合が高いなど、地区間の差異がみられた。

イ 課程・学科別にみた取組内容
【表 73】

取組のねらい (課程・学科別)	全 県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
学力向上・授業の質の向上	17.9%	20.7%	22.7%	0.0%	0.0%	9.1%
環境整備	40.3%	31.0%	45.5%	60.0%	0.0%	45.5%
キャリア教育	34.3%	27.6%	45.5%	20.0%	0.0%	36.4%
地域行事参加	61.2%	69.0%	72.7%	0.0%	0.0%	45.5%
地域理解	46.3%	41.4%	59.1%	0.0%	0.0%	54.5%
地域住民の生涯学習	14.9%	13.8%	4.5%	40.0%	0.0%	27.3%
地域施設訪問	43.3%	44.8%	40.9%	40.0%	0.0%	45.5%
防災（減災）・防犯	19.4%	10.3%	22.7%	20.0%	0.0%	36.4%
交通安全	28.4%	27.6%	31.8%	0.0%	0.0%	36.4%
その他	9.0%	3.4%	13.6%	20.0%	0.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「地域行事参加」「地域理解」は、全日制課程で回答割合が高かった。また、「防災・防犯」「交通安全」では、特別支援で回答割合が高かった。

《参考：問4「その他」の主な回答記述》

- 生徒の自己肯定感の育成
- 地域活性化案の地元企業への提案
- 地域イベントのリ・デザイン
- コミュニケーション等の実践活動からの課題発見

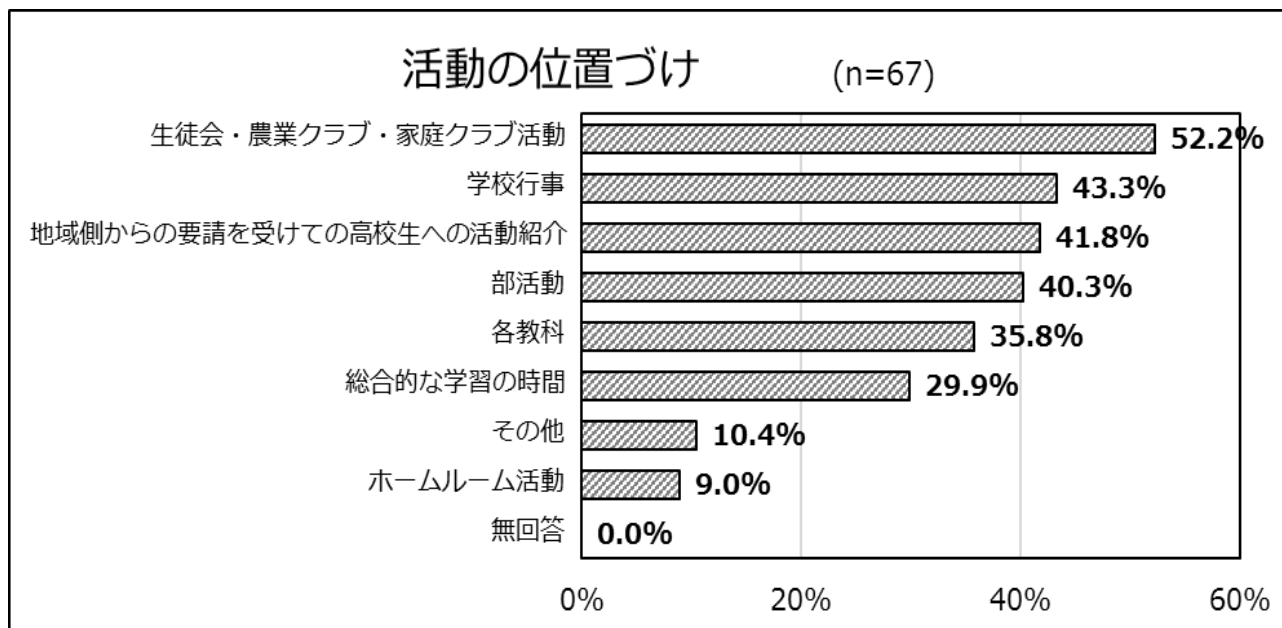
(6) 活動の位置づけ

問5 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それらの活動は、どのような位置づけで行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた活動の位置づけ

【図 65】



【表 74】

活動の位置づけ (各地区別)	全 県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
各教科	35.8%	33.3%	16.7%	60.0%	31.3%	42.9%	50.0%	30.0%
総合的な学習の時間	29.9%	26.7%	50.0%	60.0%	31.3%	42.9%	12.5%	10.0%
部活動	40.3%	26.7%	66.7%	60.0%	50.0%	42.9%	12.5%	40.0%
ホームルーム活動	9.0%	0.0%	16.7%	0.0%	12.5%	14.3%	12.5%	10.0%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	52.2%	40.0%	50.0%	60.0%	56.3%	57.1%	62.5%	50.0%
学校行事	43.3%	46.7%	16.7%	60.0%	43.8%	71.4%	25.0%	40.0%
地域側からの要請を受けての高校生への活動紹介	41.8%	40.0%	33.3%	60.0%	56.3%	42.9%	37.5%	20.0%
その他	10.4%	13.3%	0.0%	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	20.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動」の回答割合が 52.2%と最も高く、全ての地区で 40%以上であった。次いで、塩谷南那須地区で 70%を超える「学校行事」「地域側からの要請を受けての高校生への活動紹介」「部活動」と続き、これらの項目が全体の 40%を超える結果となった。

イ 課程・学科別にみた活動の位置づけ
【表 75】

活動の位置づけ (課程・学科別)	全 県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
各教科	35.8%	24.1%	59.1%	0.0%	0.0%	36.4%
総合的な学習の時間	29.9%	34.5%	22.7%	0.0%	0.0%	45.5%
部活動	40.3%	44.8%	59.1%	20.0%	0.0%	0.0%
ホームルーム活動	9.0%	10.3%	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	52.2%	51.7%	68.2%	40.0%	0.0%	27.3%
学校行事	43.3%	37.9%	54.5%	40.0%	0.0%	36.4%
地域側からの要請を受けての高校生への活動紹介	41.8%	55.2%	40.9%	20.0%	0.0%	18.2%
その他	10.4%	3.4%	4.5%	0.0%	0.0%	45.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制職業系専門学科では、「生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動」の回答割合が極めて高かった。他にも、「各教科」の回答割合が高く、学んだ成果を活動に生かしている様子がうかがえる。「部活動」では、全日制的回答割合が高かった。

特別支援では、「総合的な学習の時間」の回答割合が高かった。また、「その他」の回答割合も高く、「PTA の行事、活動」やボランティア養成等の「学校主催の講座の実施（アカデミアとちぎ等）」との記述が多かった。

《参考：問 5 「その他」の主な回答記述》

○PTA の行事、活動

○学校主催の講座の実施（アカデミアとちぎ等）

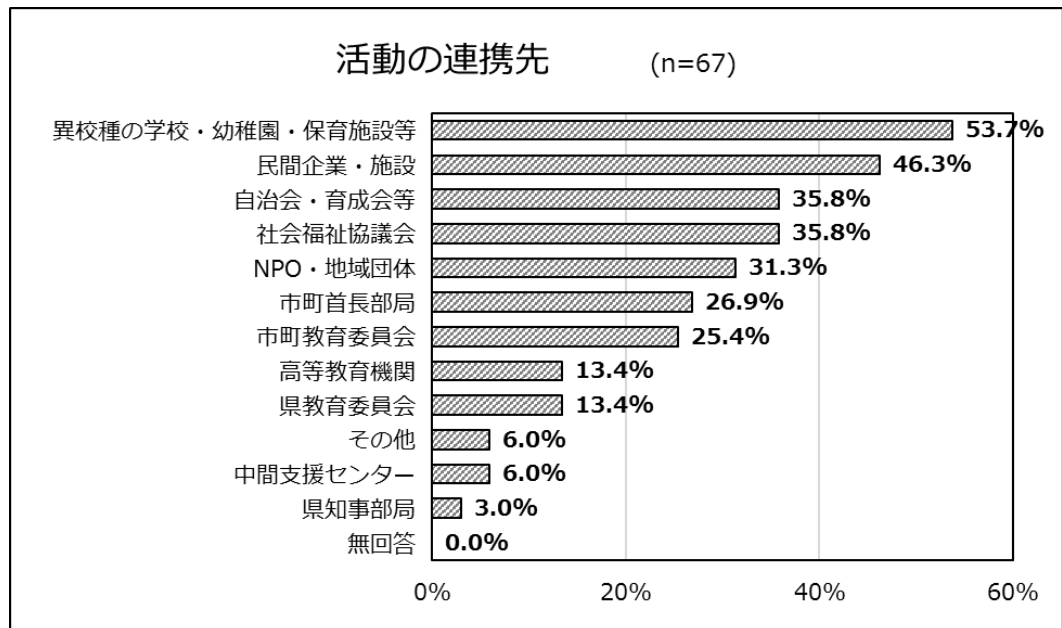
(7) 活動の連携先

問6 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それらの活動は、どのような機関と連携して行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた活動の連携先

【図 66】



【表 76】

活動の連携先 (各地区別)	全 県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
県教育委員会	13.4%	6.7%	16.7%	20.0%	12.5%	0.0%	25.0%	20.0%
市町教育委員会	25.4%	6.7%	16.7%	60.0%	18.8%	42.9%	37.5%	30.0%
県知事部局	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	14.3%	0.0%	0.0%
市町首長部局	26.9%	13.3%	83.3%	20.0%	25.0%	42.9%	25.0%	10.0%
社会福祉協議会	35.8%	20.0%	16.7%	60.0%	37.5%	57.1%	25.0%	50.0%
中間支援センター	6.0%	6.7%	16.7%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
民間企業・施設	46.3%	46.7%	33.3%	80.0%	37.5%	85.7%	25.0%	40.0%
異校種の学校・幼稚園・保育施設等	53.7%	40.0%	50.0%	20.0%	68.8%	71.4%	62.5%	50.0%
NPO・地域団体	31.3%	26.7%	33.3%	40.0%	43.8%	71.4%	12.5%	0.0%
高等教育機関	13.4%	6.7%	16.7%	0.0%	31.3%	14.3%	0.0%	10.0%
自治会・育成会等	35.8%	53.3%	50.0%	60.0%	18.8%	28.6%	25.0%	30.0%
その他	6.0%	13.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「異校種の学校・幼稚園・保育施設等」が53.7%と回答割合が最も高く、次いで、「民間企業・施設」、並んで「社会福祉協議会」「自治会・育成会等」が続く。

地区間の特徴もみられ、河内地区では「自治会・育成会等」が、上都賀地区では「市町首長部局」が、芳賀地区では「社会福祉協議会」が、下都賀地区では「高等教育機関」が、塩谷南那須地区では「民間企業・施設」「異校種の学校・幼稚園・保育施設等」「NPO・地域団体」が、それぞれ他地区と比べて回答割合が高かった。

特に、塩谷南那須地区では回答割合の高い項目が多く、いろいろな機関と連携しながら活動を進めている様子が見える。

イ 課程・学科別にみた活動の連携先

【表 77】

活動の連携先 (課程・学科別)	全 県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
県教育委員会	13.4%	13.8%	9.1%	0.0%	0.0%	27.3%
市町教育委員会	25.4%	27.6%	27.3%	20.0%	0.0%	18.2%
県知事部局	3.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
市町首長部局	26.9%	20.7%	45.5%	0.0%	0.0%	18.2%
社会福祉協議会	35.8%	34.5%	45.5%	40.0%	0.0%	18.2%
中間支援センター	6.0%	6.9%	4.5%	0.0%	0.0%	9.1%
民間企業・施設	46.3%	34.5%	63.6%	20.0%	0.0%	54.5%
異校種の学校・幼稚園・保育施設等	53.7%	62.1%	59.1%	60.0%	0.0%	18.2%
NPO・地域団体	31.3%	34.5%	40.9%	0.0%	0.0%	18.2%
高等教育機関	13.4%	17.2%	13.6%	20.0%	0.0%	0.0%
自治会・育成会等	35.8%	20.7%	36.4%	40.0%	0.0%	72.7%
その他	6.0%	6.9%	4.5%	0.0%	0.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制、定時制では「異校種の学校・幼稚園・保育施設等」が、特別支援では「自治会・育成会等」が、それぞれ回答割合が高かった。

また、全日制職業系専門学科では「民間企業・施設」「市町首長部局」が、特別支援では「県教育委員会」が、それぞれ他の課程・学科と比べて回答割合が高かった。

《参考：問6「その他」の主な回答記述》

○PTA

○警察署

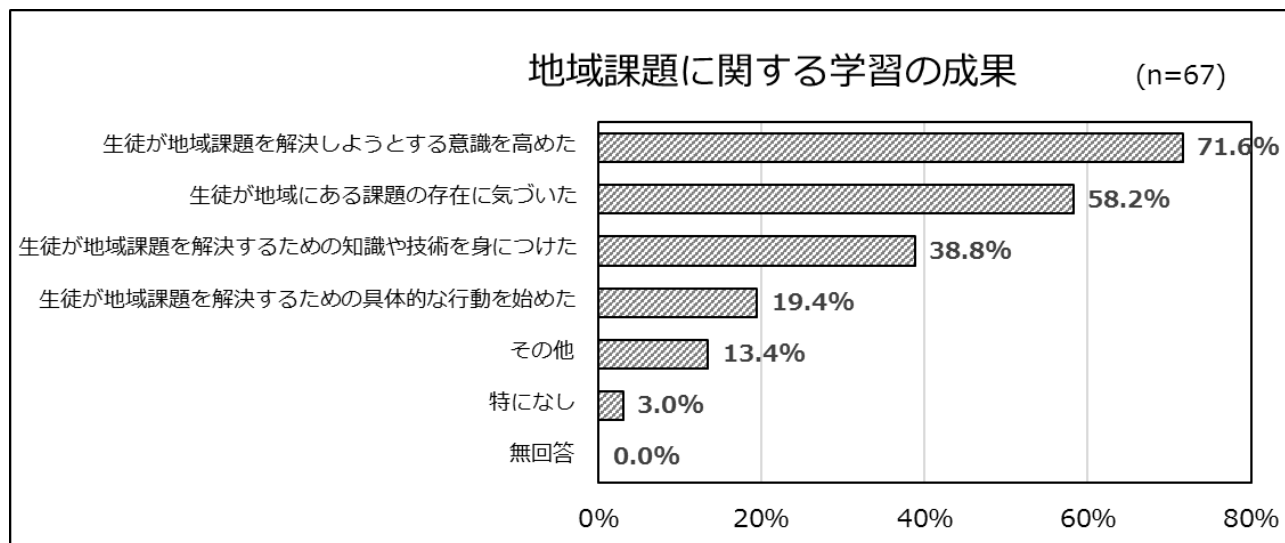
(8) 地域課題に関する学習の成果

問7 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。地域課題に関する学習を提供した成果には、どのようなものがありますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題に関する学習の成果

【図 67】



【表 78】

地域課題に関する学習の成果 (各地区別)	全 県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
生徒が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた	19.4%	13.3%	16.7%	0.0%	25.0%	28.6%	12.5%	30.0%
生徒が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた	38.8%	33.3%	50.0%	40.0%	56.3%	14.3%	37.5%	30.0%
生徒が地域課題を解決しようとする意識を高めた	71.6%	73.3%	83.3%	60.0%	75.0%	85.7%	62.5%	60.0%
生徒が地域にある課題の存在に気づいた	58.2%	66.7%	100.0%	60.0%	56.3%	71.4%	37.5%	30.0%
その他	13.4%	20.0%	0.0%	0.0%	18.8%	14.3%	12.5%	10.0%
特になし	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	12.5%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「生徒が地域課題を解決しようとする意識を高めた」「生徒が地域にある課題の存在に気づいた」の回答割合が高く、いずれの地区でも上位の項目であった。多くの学校で、地域課題に関する学習を提供した成果として、生徒が地域課題を知り、それらを解決したいという意欲の高揚につながっていることが挙げられる。

また、「生徒が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた」も 38.8%、「生徒が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた」も 19.4%の回答があった。

イ 課程・学科別にみた地域課題に関する学習の成果
【表 79】

地域課題に関する学習の成果 (課程・学科別)	全 県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
生徒が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた	19.4%	13.8%	27.3%	20.0%	0.0%	18.2%
生徒が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた	38.8%	27.6%	59.1%	40.0%	0.0%	27.3%
生徒が地域課題を解決しようとする意識を高めた	71.6%	72.4%	90.9%	80.0%	0.0%	27.3%
生徒が地域にある課題の存在に気づいた	58.2%	62.1%	68.2%	0.0%	0.0%	54.5%
その他	13.4%	10.3%	0.0%	20.0%	0.0%	45.5%
特になし	3.0%	3.4%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制職業系専門学科は、その他を除く全ての項目で他の課程・学科よりも回答割合が高く、地域課題に関する学習を提供した成果を実感している様子がうかがえる。

特別支援では「その他」の回答割合が高かったが、生徒自身の変容だけでなく、保護者の変化や地域住民の学校理解などの記述がみられた。

《参考：問7「その他」の主な回答記述》

○地域の方々との関わりをもつことができた。

(生徒は県内全域から通っているため、関わる機会が少ない。)

○年配の方々との交流で気遣いができるようになった。

○地域住民の学校に対する理解が深まった。

○思春期の子育てに対する保護者の意識を高めた。

○将来、地域で活躍したいという生徒が出てきた。

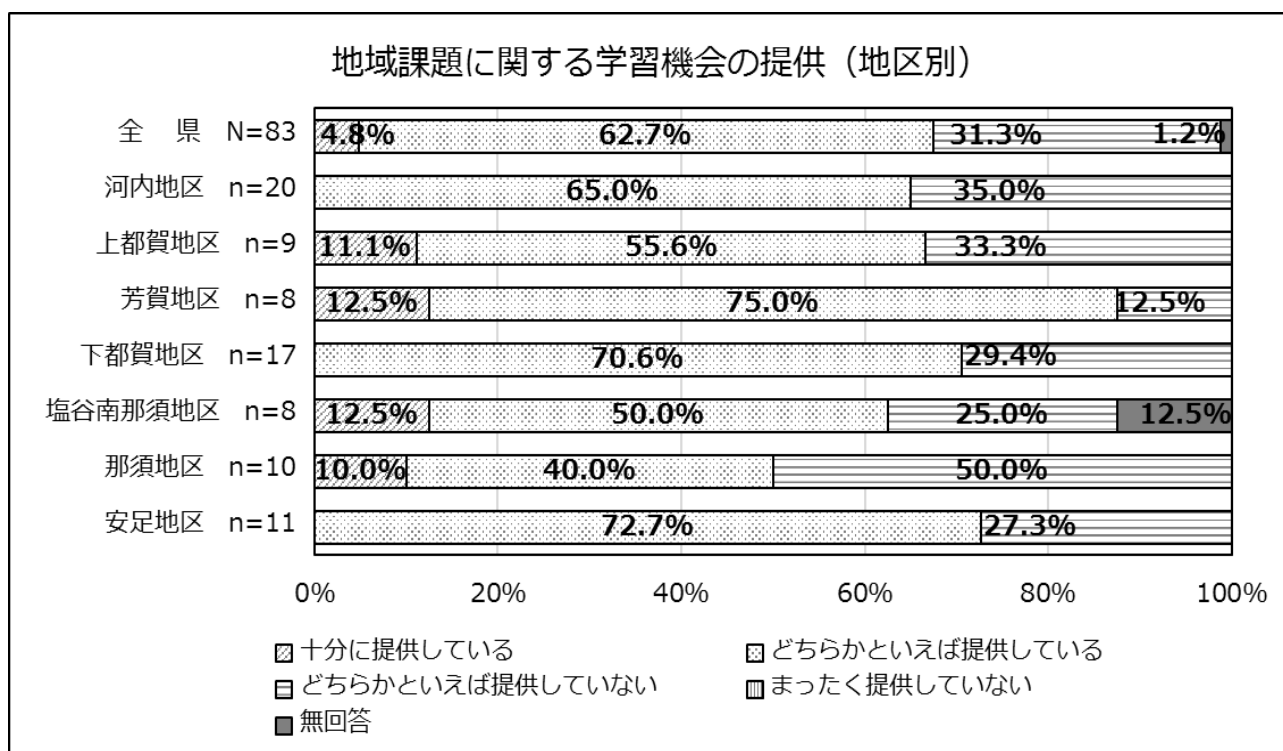
(9) 地域課題に関する学習機会の提供

問8 生徒に対して、学校や地域が地域課題に関する学習の機会を十分に提供していると感じますか。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

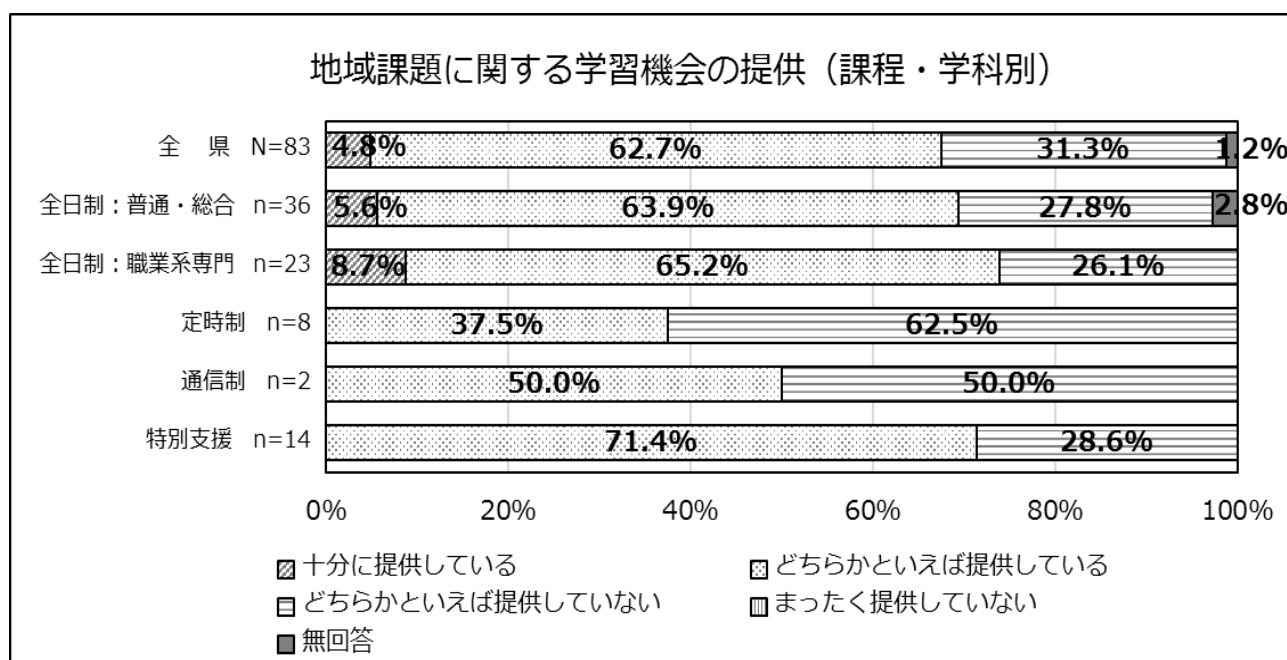
ア 各地区別にみた地域課題に関する学習機会の提供

【図 68】



全県で見ると、全体の約 2/3 は「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」と回答しているが、「十分に提供している」の回答割合は約 5%であった。

地区別にみると、芳賀地区で「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」の回答割合が 87.5%と極めて高かった。



課程・学科別にみると、全日制、特別支援では「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」の回答割合が70%前後と高かったが、定時制、通信制ではそれぞれ37.5%、50.0%であった。

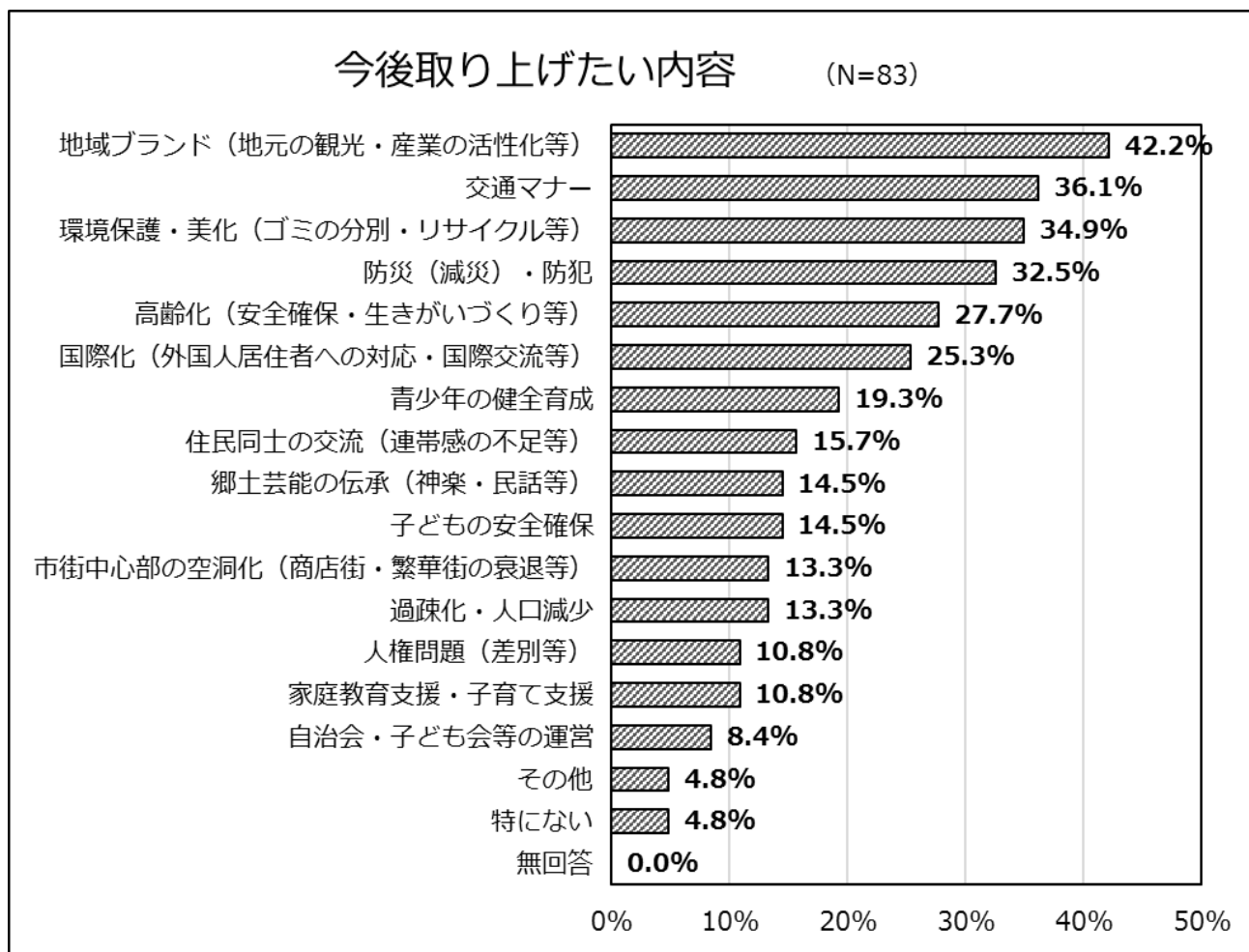
(10) 今後取り上げたい内容

問9 今後、どのようなテーマ（内容）を取り上げようと考えていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 地区別にみた今後取り上げたい内容

【図 70】



全県でみると、「地域ブランド」が42.2%と回答割合が最も高く、唯一40%を超えた。次いで、「交通マナー」「環境保護・美化」と続く。これらの3項目は、順序は違えど現在取り組んでいる内容の上位3項目とも一致する（図63参照）。

回答割合の高い順で4番目は「防災・防犯」、5番目は「高齢化」である。これらは、教員による地域課題の認識の上位3項目の内の2項目であった（図60参照）。

現在取り組んでいる活動の質の維持・向上とともに、現在考え得る地域課題への取組も視野に、地域との連携・協働を進めている様子がうかがえる。

【表 80】

今後取り上げたい内容 (各地区別)	全 県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
防災（減災）・防犯	32.5%	55.0%	11.1%	50.0%	23.5%	37.5%	10.0%	27.3%
子どもの安全確保	14.5%	20.0%	22.2%	12.5%	11.8%	0.0%	0.0%	27.3%
家庭教育支援・子育て支援	10.8%	10.0%	0.0%	0.0%	23.5%	12.5%	10.0%	9.1%
青少年の健全育成	19.3%	25.0%	11.1%	12.5%	11.8%	0.0%	30.0%	36.4%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	14.5%	15.0%	11.1%	25.0%	11.8%	25.0%	10.0%	9.1%
自治会・子ども会等の運営	8.4%	15.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	18.2%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	15.7%	20.0%	11.1%	12.5%	17.6%	0.0%	10.0%	27.3%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	27.7%	20.0%	11.1%	12.5%	41.2%	50.0%	10.0%	45.5%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	42.2%	35.0%	33.3%	62.5%	41.2%	62.5%	60.0%	18.2%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	25.3%	30.0%	33.3%	50.0%	17.6%	12.5%	20.0%	18.2%
過疎化・人口減少	13.3%	5.0%	11.1%	12.5%	17.6%	50.0%	0.0%	9.1%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	34.9%	55.0%	33.3%	25.0%	23.5%	37.5%	20.0%	36.4%
人権問題（差別等）	10.8%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	10.0%	9.1%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	13.3%	5.0%	11.1%	0.0%	11.8%	37.5%	10.0%	27.3%
交通マナー	36.1%	65.0%	44.4%	37.5%	11.8%	12.5%	20.0%	45.5%
特にない	4.8%	5.0%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
その他	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	12.5%	0.0%	18.2%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

地区別にみると、河内地区で「交通マナー」「防災・防犯」「環境保護・美化」、芳賀地区で「防災・防犯」「地域ブランド」「国際化」、塩谷那須地区で「地域ブランド」「高齢化」「過疎化・人口減少」、那須地区で「地域ブランド」が、それぞれ 50%以上の回答割合となった。

イ 課程・学科別にみた今後取り上げたい内容
【表 81】

今後取り上げたい内容 (課程・学科別)	全 県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
防災（減災）・防犯	32.5%	27.8%	34.8%	37.5%	50.0%	35.7%
子どもの安全確保	14.5%	8.3%	4.3%	25.0%	50.0%	35.7%
家庭教育支援・子育て支援	10.8%	16.7%	0.0%	25.0%	0.0%	7.1%
青少年の健全育成	19.3%	13.9%	26.1%	12.5%	0.0%	28.6%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	14.5%	13.9%	13.0%	12.5%	0.0%	21.4%
自治会・子ども会等の運営	8.4%	5.6%	8.7%	12.5%	0.0%	14.3%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	15.7%	8.3%	13.0%	25.0%	50.0%	28.6%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	27.7%	19.4%	43.5%	25.0%	0.0%	28.6%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	42.2%	38.9%	60.9%	12.5%	50.0%	35.7%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	25.3%	36.1%	21.7%	25.0%	0.0%	7.1%
過疎化・人口減少	13.3%	13.9%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	34.9%	30.6%	34.8%	50.0%	0.0%	42.9%
人権問題（差別等）	10.8%	13.9%	4.3%	0.0%	0.0%	21.4%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	13.3%	19.4%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%
交通マナー	36.1%	27.8%	43.5%	37.5%	50.0%	42.9%
特にない	4.8%	8.3%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	4.8%	5.6%	4.3%	12.5%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

課程・学科別にみると、回答割合で最も高かったのは、全日制職業系専門学科における「地域ブランド」で、60.9%であった。

《参考：問9「その他」の主な回答記述》

○地域住民による地域づくり・地域活性化

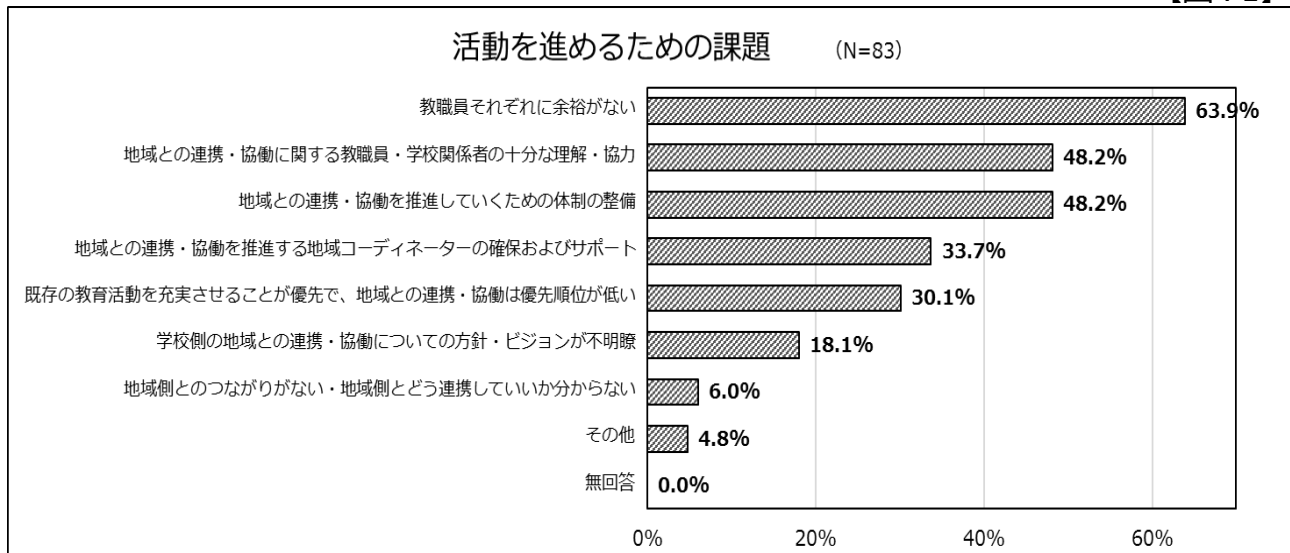
(11) 活動を進めるための課題

問 10 地域課題に関する活動を進めていくために、どのような課題を感じていますか。特にあてはまる番号 3 つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 地区別にみた活動を進めるための課題

【図 71】



【表 82】

活動を進めるための課題 (各地区別)	全 県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
地域との連携・協働を推進していくための体制の整備	48.2%	45.0%	55.6%	37.5%	47.1%	75.0%	40.0%	45.5%
地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力	48.2%	50.0%	44.4%	37.5%	52.9%	50.0%	50.0%	45.5%
地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート	33.7%	25.0%	66.7%	37.5%	23.5%	62.5%	20.0%	27.3%
教職員それぞれに余裕がない	63.9%	60.0%	55.6%	75.0%	88.2%	12.5%	80.0%	54.5%
学校側の地域との連携・協働についての方針・ビジョンが不明瞭	18.1%	15.0%	33.3%	37.5%	5.9%	25.0%	30.0%	0.0%
既存の教育活動を充実させることが優先で、地域との連携・協働は優先順位が低い	30.1%	45.0%	33.3%	25.0%	23.5%	25.0%	20.0%	27.3%
地域側とのつながりがない・地域側とどう連携していいかわからない	6.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.8%	0.0%	10.0%	9.1%
その他	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	20.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「教職員それぞれに余裕がない」の回答割合が 63.9%と最も高く、塩谷南那須地区を除く 6 地区で最上位であった。次いで、「地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力」「地域との連携・協働を推進していくための体制の整備」「地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート」となっている。

イ 課程・学科別にみた活動を進めるための課題

【表 83】

活動を進めるための課題 (課程・学科別)	全 県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
地域との連携・協働を推進していくための体制の整備	48.2%	44.4%	47.8%	62.5%	0.0%	57.1%
地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力	48.2%	50.0%	43.5%	62.5%	0.0%	50.0%
地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート	33.7%	27.8%	17.4%	50.0%	50.0%	64.3%
教職員それぞれに余裕がない	63.9%	75.0%	73.9%	25.0%	100.0%	35.7%
学校側の地域との連携・協働についての方針・ビジョンが不明瞭	18.1%	25.0%	17.4%	12.5%	50.0%	0.0%
既存の教育活動を充実させることが優先で、地域との連携・協働は優先順位が低い	30.1%	36.1%	30.4%	0.0%	50.0%	28.6%
地域側とのつながりががない・地域側とどう連携していいかわからない	6.0%	8.3%	0.0%	12.5%	0.0%	7.1%
その他	4.8%	2.8%	8.7%	12.5%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制、通信制は、「教職員それぞれに余裕がない」が、定時制、特別支援と比べて回答割合が高かった。定時制や通信制、特別支援では、「地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力」「地域との連携・協働を推進していくための体制の整備」「地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート」が、全日制と比べて回答割合が高かった。

《参考：問 10「その他」の主な回答記述》

- 実技系の学科の生徒と比較して、普通科の生徒に活躍の場を提供することが難しい。
- 生徒が考案したことや活動したことを、どう「見える化」(自身・地域) するかが難しい。
- 定時制の生徒には、活動時間帯に制約がある。

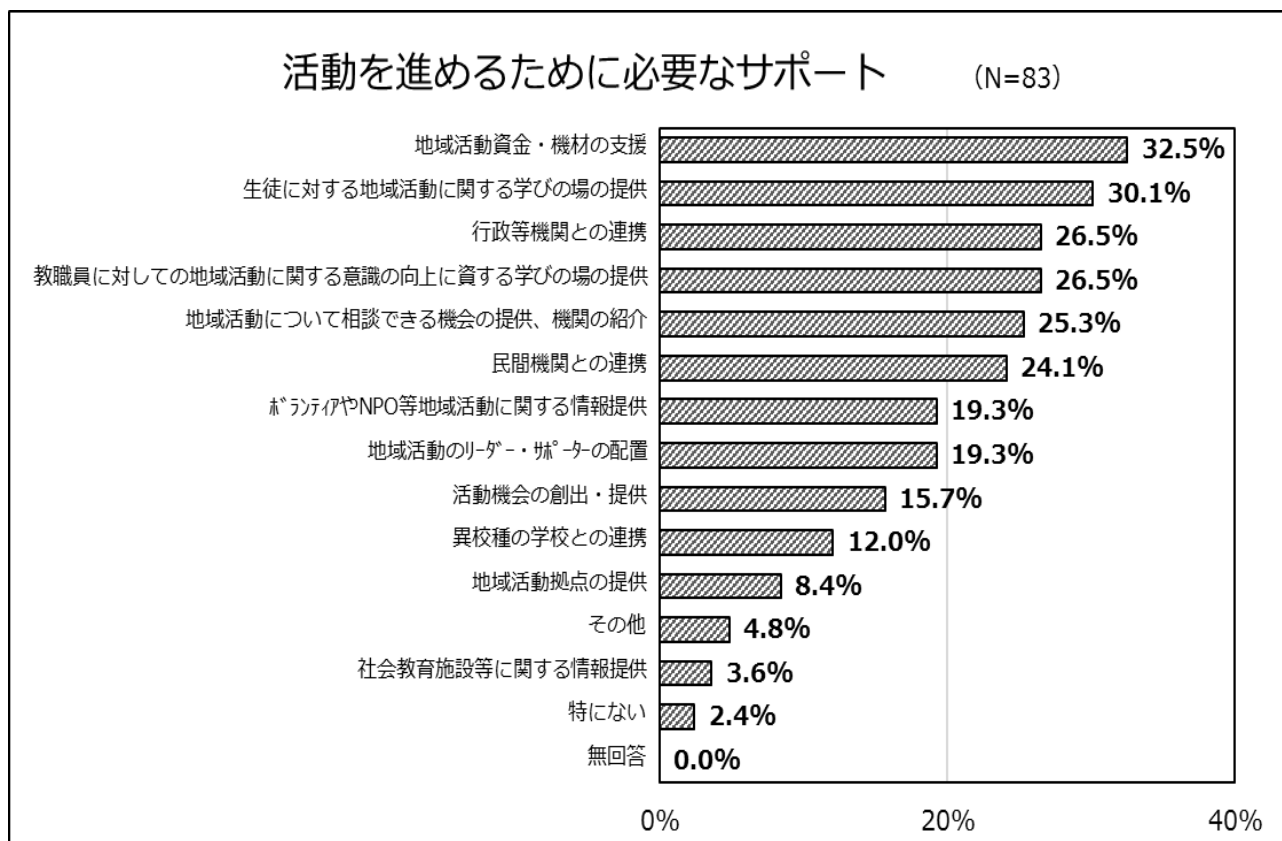
(12) 活動を進めるために必要なサポート

問 11 どのようなサポートがあると、地域課題に関する活動が円滑に進むと思いますか。あてはまる番号 3 つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 地区別にみた活動を進めるために必要なサポート

【図 72】



全県でみると、「地域活動資金・機材の支援」の回答割合が最も高かった。次いで、「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」が続く、これらの 2 項目が 30%を超えた。

また、「教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供」「行政等機関との連携」の回答割合も高く、前問の「活動を進めるための課題」に挙げられていた、「地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力」「地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート」等の課題解決に向けたサポートを望んでいる現状がうかがえる(図 71 参照)。また、回答割合が 50%を超える項目はなく、必要なサポートは地域や学校の現状により異なることも推測できる。

【表 84】

活動を進めるために必要なサポート (各地区別)	全 県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	25.3%	20.0%	22.2%	37.5%	17.6%	25.0%	30.0%	36.4%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	30.1%	35.0%	22.2%	37.5%	23.5%	25.0%	30.0%	36.4%
地域活動資金・機材の支援	32.5%	30.0%	33.3%	37.5%	23.5%	50.0%	30.0%	36.4%
地域活動のリーダー・サポーターの配置	19.3%	10.0%	33.3%	25.0%	17.6%	37.5%	20.0%	9.1%
地域活動拠点の提供	8.4%	5.0%	11.1%	0.0%	11.8%	0.0%	30.0%	0.0%
活動機会の創出・提供	15.7%	15.0%	0.0%	37.5%	17.6%	0.0%	10.0%	27.3%
社会教育施設等に関する情報提供	3.6%	10.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
ボランティアやNPO等地域活動に関する情報提供	19.3%	15.0%	22.2%	0.0%	29.4%	12.5%	30.0%	18.2%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	26.5%	30.0%	11.1%	12.5%	47.1%	25.0%	20.0%	18.2%
行政等機関との連携	26.5%	25.0%	33.3%	25.0%	23.5%	37.5%	20.0%	27.3%
民間機関との連携	24.1%	25.0%	11.1%	50.0%	17.6%	50.0%	20.0%	9.1%
異校種の学校との連携	12.0%	5.0%	11.1%	0.0%	23.5%	12.5%	10.0%	18.2%
特にない	2.4%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
その他	4.8%	5.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

地区別にみると、芳賀地区、塩谷南那須地区で「民間機関との連携」、下都賀地区で「教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供」の回答割合が高く、最も低い地区との差が 30%を超えた。

イ 課程・学科別にみた活動を進めるために必要なサポート
【表 85】

活動を進めるために必要なサポート (課程・学科別)	全 県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	25.3%	25.0%	13.0%	50.0%	50.0%	28.6%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	30.1%	25.0%	39.1%	50.0%	50.0%	14.3%
地域活動資金・機材の支援	32.5%	36.1%	39.1%	12.5%	50.0%	21.4%
地域活動のリーダー・サポーターの配置	19.3%	25.0%	8.7%	12.5%	0.0%	28.6%
地域活動拠点の提供	8.4%	11.1%	0.0%	12.5%	0.0%	14.3%
活動機会の創出・提供	15.7%	13.9%	21.7%	12.5%	0.0%	14.3%
社会教育施設等に関する情報提供	3.6%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ボランティアやNPO等地域活動に関する情報提供	19.3%	11.1%	21.7%	50.0%	0.0%	21.4%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	26.5%	27.8%	30.4%	25.0%	50.0%	14.3%
行政等機関との連携	26.5%	27.8%	4.3%	37.5%	50.0%	50.0%
民間機関との連携	24.1%	25.0%	13.0%	25.0%	50.0%	35.7%
異校種の学校との連携	12.0%	8.3%	17.4%	0.0%	0.0%	21.4%
特になし	2.4%	2.8%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	4.8%	2.8%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

定時制や通信制では、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」の回答割合が高く、生徒の活動機会創出に向けたサポートを必要としている状況がうかがえる。

特別支援では、「行政機関等との連携」「民間機関との連携」の回答割合が高く、連携機関の幅を広げ、活動の質の向上を目指していくためのサポートを必要としている状況がうかがえる。

《参考：問 11「その他」の主な回答記述》

○対応できる人員の確保 ○生徒の活動時間の確保

(13) 地域との協働による高等学校改革の推進に関する自由記述

問 12 国（文部科学省）では、「地域との協働による高等学校改革の推進」において、「高等学校と市町村・産業界・高等教育機関・社会教育施設（公民館等）等とが協働し、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組を推進すること」を求めています。このことについて、あなたが感じていることなど、自由にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

アンケート調査回答者の地域との協働による高等学校改革の推進に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 12 の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎高等学校に対する地域のニーズを、学校側が把握できない（機会がない）。
- ◎地域課題の解決に取り組むことを主権者教育（社会人としての在り方、生き方を考えさせ、実行に移せるようなキャリア教育 他）と結びつけて実施したいが、現行の教育内容との調整が難しい。
- ◎次期学習指導要領「社会に開かれた教育課程」「探究的な学び」の実現のために、教科カリキュラムを核に教育を進めてきた中で急に再編するには様々な支障・問題が生じる。また、それに見合った効果が期待できるか定かではない。「総合的な探究の時間」「SHR」「LHR」「部活動」の枠に、大学・地域との接点を継続的に設け、学習者の一生を支えるような自発的な学習動機を芽生えさせ、育てられたらと思う。
- ◎生徒も教職員も、取り組まなければならないものがたくさんあり（部活動や学習〔平日の学習活動以外の土日の模擬試験など〕）、地域と協働を進める余裕がない。
- ◎学校と行政、企業との意識に格差を感じており、地域側の協働に対する理解も必要である。互いが協働していくためのシステムが必要だと考える。
- ◎学校が地域諸機関と連携することによりどんなメリットがあるのか、という点について広く教員に浸透していない。教員に向けて地域連携に関する研修を行うなど、未来を生き抜く生徒を教育する上で必要なことを伝えていく必要がある。
- 協働することが目的ではないので、効果的な学びや地域課題の解決に取り組んでいきたいが、それらを評価したり、検証したりするのは難しい。
- 高校生が地域に出て活動することは多いが、ボランティアや運営スタッフの協力のみで終わってしまう。それでは地域で学んだことにはならないので、事前事後の指導にも取り組む必要性を感じている。
- 探究的な学びを実現する取組について、長期的かつ継続的な取組が想定されることから、高等学校卒業後も続けてできるよう、学校や市町村、社会教育施設等が連携を図り、生涯学習に根ざした活動形態を設けることが必要である。その一例として、在学中には行事だけでの地域との交流だけではなく、生徒を日常的に交流の場に迎えらる体制があるとよい。

《参考：問 12 の主な回答記述（続き）》

- 理想と現実のギャップを感じているが、小学校や大学などの連携しやすいところから協働を進めていきたい。
- 生徒はいきいきと活動していて、地元住民とのつながり、普段の学習内容への興味・関心の向上など、学校内だけでは得られない教育効果がある。
- 地域との協働に携わっている教員や生徒はよく理解しているが、他へ広まっていかない。全職員、全校生徒で取り組めるようになるとうい。
- 定時制では、多くの生徒が昼間アルバイト等で働き、夜間学校で勉強しているので、社会との繋がりには個人差が大きい。また、生徒には地域課題の解決に取り組む時間的余裕がない。
- 地域側が高校生を「無償の労働力」と捉えている印象があるが、学校現場の実情を理解した上で要望してもらえるとありがたい。
- 高校生が学ぶ内容について整理し、もっと余裕をもって学校生活を送れるようにした上で、自らの様々な問題について考えられる状況をつくり、取組を進めるべきである。
- 地域コーディネーターの役割がこれまで以上に重要になる。
- 働き方改革で仕事量を減らす中で、逆に増加することについて違和感を覚える。